

視察・研修等報告書

平成 30 年 7 月 31 日

北上市議會議長様

北上市議會議員 小原 享子

次の 視察 **研修** について結果を報告します。

期間(期日)	30 年 7 月 11 日(水)から 7 月 12 日(木)まで
視察先 視察内容 または 研修事項	全国地方議会サミット2018 「議会の力で日本創生」

[内容及び所感]

<1日目>
【基調講演】「地方議会から日本を変える」 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事
【特別講演】「地方創生の展望」 安田充 総務省事務次官(野田聖子総務大臣は国会日程により欠席)
【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」
「地方創生と地方議会の役割」 元総務大臣の片山善博 早稲田大学教授。
「震災復興と地方創生」 大西一史 熊本市長。
各講演のあと、北川正恭 早稲田大学名誉教授、片山善博 早稲田大学教授、大西一史 熊本市長 により「真の地方創生とは何か」と題してディスカッション
【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」 江藤俊昭 山梨学院大学教授。
【パネルディスカッション】「議会力強化のための、議会事務局の変革」
小林宏子 羽村市議会事務局長、清水克士 大津市議会局次長。
進行役:千葉茂明 月刊『ガバナンス』編集長

<2日目>

【先進事例報告①】 「地方創生をリードする議会へ」

「住民との対話から課題解決へ」 目黒章三郎 会津若松市議会議長

「広報改革から展開する議会改革」 子籠敏人 あきる野市議会議長

「自由討議で委員会提言へ」 ピアンキ・アンソニー 犬山市議会議長

「委員会代表質問と政策サイクル」 川上文浩 可児市議会議長

パネルディスカッション 進行役:廣瀬克哉 法政大学教授

【先進事例報告②】 「政策を実現する議会へ」

「条例マニフェストと議会改革」 尾崎大介 東京都議会議長

「議員提案条例による政策実現」 松本研 横浜市議会議長

【講演】「海外の議会制度から議会の多様性を考える」 中林美恵子 早稲田大学教授

【パネルディスカッション】「多様性ある議会に向けた実践と課題」

本間まさよ 武藏野市議会議長、岩永ひさか 多摩市議会議長、白川静子 茅ヶ崎市議会議長

進行役:中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

【提言、総括】 「議会からの日本創生」

北川正恭 早稲田大学名誉教授、ゲスト陣、ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟共同代表

<所感>

全国から、議会関係者を中心に1030名が参加して行わたサミットでした。

少子高齢化、人口減少、災害の多発など、深刻な課題を抱えながら、議会も取り組んでいます。

市民の声を生かすためにどうすればいいのか。他議会がどの様に市民に向き合っているのか、議会としての取り組みを直に聴く大変貴重な経験がありました。

北川先生から、政治の世界にもPDCAサイクルが必要であり、お願いの選挙から約束の選挙に、

マニフェストが重要になること、マニフェスト大賞も15年になる事も聞き、私たち地方議員の質の向上も必要と感じました。

先進事例報告を聞くことで、当市議会でも更に議会改革を進めることで、市民の意見に耳を傾け

議会としてできることは、まだあると改めて感じました。

TTP「徹底的にパクリあう」、当市議会にも取り入れたい事例が多くありました。

「政策を実現する議会」の報告で、「議会提案条例」についてありました。条例の作成は、

当市では、ほとんどが市の関係部課で作成され、議員はそれを審議する状況です。条例作成

に当たって、議会としても提案するだけの力をつける必要性も感じる訳ですが、難しさも感じます。

議会事務局の力もあり、市民にとって必要な条例を作り上げるだけの力も付けたいと思います。

このサミットは、今後も開催される予定です。全国の取り組みに目を向け、当市議会のさらなる

活性化のためにも、今後も参加していきたいと思います。

7/11-12

早稲田大学大隈記念講堂大講堂

全国地方議会サミット2018 議会のチカラで日本創生



田中千子
参議院議員



北川正義
早稲田大学名誉教授



片山善博
早稲田大学教授



中野真紀子
早稲田大学教授



山本俊郎
山形学院大学教授



福田利一
法政大学教授

少子高齢化、人口減少など、深刻な課題が自治体に突き付けられています。そのなかで、議決権をもつ議会は、魅力的な地域づくりを行うための重大な責任と豊かな可能性をもっています。サミットでは、早稲田大学大隈記念講堂に先進的な議会が集結し、政策で地域に貢献するための実践について議論します。「地方創生時代を議会がリードする」そんな新時代への大きな場面転換の場にし、これから議会のあり方を全国に向けて発信します。

《概要》

【日時】2018年7月11日（水）13：00～17：30
2018年7月12日（木）09：30～16：00

【場所】早稲田大学大隈記念講堂大講堂
(東京都新宿区戸塚町1丁目104)

【対象】議会議員、議会事務局職員、一般 1,000名

【主催】ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟
マニフェスト大賞実行委員会

【共催】早稲田大学マニフェスト研究所

【参加費】現職議員 10,000円
議会事務局職員、一般 5,000円



※参加費は7月5日までにお名前を明記しお振込みください。手数料はご負担ください。

三菱UFJ銀行・日本橋中央支店・普通・0200471 一般社団法人マニフェスト研究会

※1日目終了後、18:00～意見交換会を大隈ガーデンハウスにて開催します。

先着200名様。参加費（一人4,000円）は、意見交換会会場にて当日お支払いください。

※参加費に宿泊費は含まれていません。宿泊は各自で手配ください。

《お申込み》

裏面FAX用申込み用紙またはwebサイトからお申込みください
<http://www.local-manifesto.jp/gikaiin/>

《お問合せ》

早稲田大学マニフェスト研究所（担当：永尾、中村）
TEL:03-6214-1315 / E-Mail : mani@maniken.jp

■ 1日目：7月11日（水）13:00-17:30 ※プログラムは変更の可能性がございます

【基調講演】「地方議会から日本を変える」

北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事

【特別講演】「地方創生の展望」

野田聖子 総務大臣

【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」

片山善博 早稲田大学教授、元総務大臣／地方創生と地方議会の役割

大西一史 熊本市長／震災復興と地方創生

【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」

江藤俊昭 山梨学院大学教授

【パネルディスカッション】「議会力強化のための、議会事務局の変革」

小林宏子 東京都羽村市議会事務局長

清水克士 滋賀県大津市議会局次長

▽進行：千葉茂明 月刊『ガバナンス』編集長

※終了後、意見交換会を開催

■ 2日目：7月12日（木）9:30-16:00

【先進事例報告①】「地方創生をリードする議会へ」

目黒章三郎 福島県会津若松市議会議長／住民との対話から課題解決へ

子籠敏人 東京都あきる野市議会議長／広報改革から展開する議会改革

ビアンキ・アンソニー 愛知県犬山市議会議長／自由討議で委員会提言へ

川上文浩 岐阜県可児市議会議長／委員会代表質問と政策サイクル

▽進行：廣瀬克哉 法政大学教授

【先進事例報告②】「政策を実現する議会へ」

尾崎大介 東京都議会議長／条例マニフェストと議会改革

松本研 横浜市議会議長／議員提案条例による政策実現

【講演】「海外の議会制度から議会の多様性を考える」

中林美恵子 早稲田大学教授

【パネルディスカッション】「多様性ある議会に向けた実践と課題」

本間まさよ 東京都武蔵野市議会議長

岩永ひさか 東京都多摩市議会議長

白川 静子 神奈川県茅ヶ崎市議会議長

【提言、総括】「政策型選挙の実現に向けて」

北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事、ほか ※終了後、参加者全員で記念撮影

《FAX用 申込み用紙》

お名前		電話番号	
ご所属		メールアドレス	
参加内容	<input type="checkbox"/> 1日目研修会	<input type="checkbox"/> 意見交換会	<input type="checkbox"/> 2日目研修会

FAX送信先 ➤ 03-6214-1186

視察・研修等報告書

平成 31年 2月 20日

北上市議會議長様

北上市議會議員 小原 享子

次の 視察 **研修** について結果を報告します。

期間(期日)	31年 2月 7日(木)
視察先 視察内容	地方議会研修会in北上市 「議会改革第2ステージ 東北からチーム議会を目指して」
または	
研修事項	

[内容及び所感]

北川先生の基調講演の後、全国で改革をリードする3議会の議長および議長経験者による、事例紹介が行われた。当市議會議長から、「議会の報酬等検討委員会」を中心に、議員報酬・定数を議会と議員のあり方について検討してきた経緯など取り組みの現状の報告があった。
「議会事務局セッション」では、元滝沢市議会事務局長の中道俊之さんをコーディネーターに、
「チーム議会」を支える議会事務局職員として北上市議会事務局の小原昌江議事課課長、茨城県取手市議会事務局の岩崎弘宣局長補佐、宮城県柴田町議会の佐山亨主査の3人が登壇し、北川先生も加えてパネルディスカッションが行われた。
北川先生から、「これから議会は、二元代表制において首長と政策競争する住民代表機関であるなら、政策提言を積極的に行い、議員個人の力から議会としての力を発揮する必要がある。
その中で、議会事務局は議会側をサポートする役割が必要、地域課題で必要な政策を見極めるためにも議会事務局の視点も重要となる。議会総体として、住民福祉を向上するために『チーム議会』

は必要である」と言われた。

このセッションに参加し、改めて議会事務局の重要性と「チーム議会」としての活動を意識できた。

当市において議会事務局は、議会改革推進の要である。地域課題の解決のため、政策提案するなど市民福祉に貢献することが議会に求められている。そのサポートをしてくれている議会事務局がいるからこそ議会の役割を果たせている。議員個人として活動する時代から、議会としての役割を求められる時代になっている。今後ますます重要な「チーム議会」の役割を、お互い認め合い議会事務局とのより良い関係を築きながら、力を合せ、市民福祉と共に考えられる議会にしたい。

今後も、市民のために知恵を出し合い活動していきたいと思う。

地方議会研修会 in 北上市 「議会改革第2ステージ 東北からチーム議会を目指して」

議会のあり方を体系立てて示す「議会基本条例」の制定数は、全国自治体の約半数にのぼりました。議会改革の「形式要件」はある程度整ってきたと言えますが、今後は議会活動がどれだけ地域や住民の生活に貢献することができるか、「実質」が問われる時代です。その「議会改革第2ステージ」に向け、議会総体としてどのように取り組むべきか、先進事例に学ぶとともに議会改革のこれから展開を議論し東北から発信します。

■日 時：2019年2月7日（木）13時～16時45分（開場12時30分）
※終了後、意見交換会を予定しています

■場 所：ブランニューキタカミ
(岩手県北上市大通り1丁目10-1／0197-72-7075)
※東北縦貫自動車道「北上江釣子IC」から車で約10分
※東北新幹線・東北本線「北上駅」西口から徒歩で約3分

■対 象：地方議会議員、議会事務局職員 150名

■参加費：地方議会議員 3,000円、議会事務局職員 無料

■主 催：ローカル・マニフェスト推進連盟東北

■共 催：早稲田大学マニフェスト研究所

■申込み：ホームページのWEBフォーマットもしくは
裏面のFAX申込用紙より送信してください。

<プログラム>

【基調講演】

「地方議会から地域を変え、地域から日本を変える」

北川正恭 早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問

【先進事例報告】

「議会と議員の活動のあり方から検討する議員報酬・定数について」

高橋穏至 北上市議會議長

【議長セッション】

高橋穏至 北上市議會議長

ピアンキ・アンソニー 犬山市議會議長

川上文浩 可児市議会前議長、ローカル・マニフェスト推進連盟共同代表

北川正恭 早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問

▽コーディネーター

佐藤淳 青森中央学院大学准教授、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

【議会事務局セッション】

小原昌江 北上市議会事務局 議事課課長

岩崎弘宜 取手市議会事務局 局長補佐

佐山 亨 柴田町議会事務局 主査

北川正恭 早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問

▽コーディネーター

中道俊之 元滝沢市議会事務局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

【総括、閉会】

視察・研修等報告書

平成 30年 11月 30日

北上市議会議長様

北上市議会議員 小原 享子

次の **視察** ・ 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	30年 11月 14日(水)から 月 日()まで
視察先 視察内容 または 研修事項	NPOスチューデント・サポート・フェイス 若者支援の取り組みについて

[内容及び所感]

<内容>

(1)「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない！」アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ～社会的孤立・排除を生まない総合的な支援体制の確立に向けて～

①従来型の取組の限界を真摯に受け止め、実態に即した組織体制を整えることが極めて重要

●深刻化・複合化する問題に対応するためには複数分野の専門職によるチーム対応が原則

(産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士、学校心理士、小・中・高等学校教諭、特別支援学校教諭、理学療法士、SSF支援コーディネーターなど)

●支援に抵抗感を持つ当事者への対応には関係性を重視し世代的条件も考慮

～支援介入困難度による役割分担と世代的条件を加味した関係性重視のマッチング～

②「アウトリーチはその後の支援過程と一体のもの」支援者には社会参加・自立までのプロセス全般を見通したアプローチが求められている

③アウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチが若年無業者の社会参加・職業的自立を効果的に促進

④「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない！」誰もが希望を抱くことのできる地域づくりのためには社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立が必須

～足りないもの、必要なものは「協働」で創り出す！S. S. F. が介在するPTCAサイクル～

<所感>

日本における「社会的孤立」は深刻である。その社会的孤立からの支援は、徹底して対象の背景のアセスメント・アウトリーチ・段階的に社会への踏み出せるよう少数から多くの人とコミュニケーションできるような支援である。

当市にも不登校の生徒、引きこもりで悩む本人・家族が多くいる。現在の縦割りの支援体制で救えない子どもたち、家族への支援は、アウトリーチによる家庭教師方式での関わりである。

アウトリーチによる支援体制は、引きこもり等社会的孤立から社会へ踏み出す支援としても有用であり、引きこもりの方々の問題を解決する手段にもなる。

引きこもりの人が社会へ出るために必用なのは、その個人に合わせた対応であり、無理に引き出すのではなく、時間がかかるても一歩ずつでもコミュニケーションをとれるようにしていくことである。当市にとっても、不登校児への対応、引きこもりの方々への対応策を考えいかなければならない。その方法として有用であり、その体制の構築を検討していかなければならぬと考える。

視察・研修等報告書

平成 30年 11月 30日

北上市議会議長様

北上市議会議員 小原 享子

次の(視察)・研修について結果を報告します。

期間(期日)	30年 11月 15日(木)から 月 日()まで
視察先	柏市
視察内容	フレイル予防について
または	
研修事項	

[内容及び所感]

フレイルとは:年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態

多くの人が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態に陥ると考えられている。

できるだけ早く、自分の状態に気づき、意識変容、行動変容に結びつけることが必要。

柏市のフレイル予防:健康長寿の3つの柱 栄養・運動・社会参加

<柏フレイル予防プロジェクト推進委員会>

(1)フレイルチェック講座:「気づき」を促すフレイルチェック ①指輪つかテストとイレブンチェック ②深堀チェック

(2)フレイル予防サポーター:フレイル予防のための市民サポーター養成研修

(3)フレイル予防活動の普及・啓発

・市民全体で取り組む総合的な一次予防

①フレイル予防に基づく講座の開催 ②フレイル予防・健康づくり出前講座

・地域で活動を推進する人材養成:市民サポーター等の養成 「通いの場」やサロン活動者への

フレイル予防研修

<地域ぐるみのフレイル予防活動の支援>

(1)介護予防センター ①講座の開催 ②グループ支援 ③人材育成

(2)地域包括支援センター ①専門職による効果的なフレイル予防 ②市民主体のフレイル予防活動への支援③フレイル予防活動を通じた地域づくりの推進

<所感>

フレイルチェックは、柏市で実施された『栄養とからだの健康増進調査(東京大学高齢社会総合研究機構)』から得られた知見を基に、心身の虚弱度を簡便かつ効果的にスクリーニングし、フレイル予防の必要性を「自分事化」し「気づき」を促進するための方法として開発された手法である。身体面、精神面社会的側面の要素が盛り込まれた包括的複合型フレイルチェックになっている。このチェックを取り入れることは、同機構と契約することで活用可能であり、安価に市民の意識向上に結び付けることが可能である。

当市においては、筋力をつける取り組みとして100歳体操、食事の改善の指導、人と関わる場の提供等の取り組みは行われているが、それらをトータルしてフレイル予防としての取り組みは十分とはいえない。フレイル予防の概念を市民に浸透させ、我が事として健康寿命を伸ばす取り組みが必要である。

当市においても、フレイルチェックにより、市民にフレイルを自分事化させ、主体的な予防を支援するとともに、地域や団体の力を活用し、生活圏域においてフレイル予防の仲間づくりを進め、健康寿命を伸ばし、要介護認定の低下に努めていくことが必要と感じた。

視察・研修等報告書

平成 30年 11月 30日

北上市議会議長様

北上市議会議員 小原 享子

次の **視察** ・ 研修について結果を報告します。

期間(期日)	30年 11月 15日(木)から 月 日()まで
視察先	市川市 保健部 斎場靈園管理課
視察内容	合葬式墓地について
または	
研修事項	

[内容及び所感]

〈内容〉
少子高齢化の進行と市川市内に低価格の墓地を望む市民の需要に応えるため、新形式の墓地として、
一つのお墓に多くの遺骨を埋蔵する合葬式墓地を、平成15年に市川市靈園内に完成した。
遺骨は、使用許可日から20年間は、骨壺に入れた状態で納骨壇に埋蔵し、20年経過後は、骨壺から
出して合葬室に永大的に埋蔵する。
埋蔵可能数:1体用 2,500体 2体用 1,250組(2,500体)
墓地使用料:1体用 71,000円 2体用 142,000円
年齢が65歳以上の方は、自己利用のために生前に申し込むことができる。
〈所感〉
少子高齢化の進行は、当市でも同様である。現在は、身寄りのない1人暮らしの方々も増えている。
また、引き取り手のない遺骨も当市でも今後増加の可能性もある。高齢者が、死後のことも

心配せず生活できるために、低価格で墓守の心配のない墓地の需要は多いはずである。人生の最期を安心して迎えられるため心づもりを進める当市では、死後の準備もしておきたいと考える市民のため、市営墓地の一角を利用する等で合葬式墓地の建設も検討すべきではないかと感じた。

視察・研修等報告書

平成 30年 11月 30日

北上市議会議長様

北上市議会議員 小原 享子

次の **視察** ・ 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	30年 11月 16日(金)
視察先 視察内容 または 研修事項	千葉市 NPO法人 ユニバーサル就労ネットワークらば ユニバーサル就労や若者支援の取り組みについて

[内容及び所感]

ユニバーサル就労とは:障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、さまざまな理由で働きたいのに はたらきづらいすべての人がはたらけるような仕組みをつくると同時に、誰にとってもはたらきやすく、 はたらきがいのある職場環境を目指していく取り組み。
〈ユニバーサル就労の働き方〉
個別の事情を抱えた多くの人を不採用とせず職場に迎え入れるために、また社会へ出るための第一歩 を支援 (1)その報酬や形態を種別化 (2)コミューターという働き方を提唱 (3)居場所や生きがい という視点もユニバーサル就労の範囲として定義し、「はたらき方」の選択肢を増やす
無償コミューター→有償コミューター→最賃保障職員→一般賃金職員
現在、様々な理由で働きづらさを感じる人は多い。また、ひきこもりの方の一般就労には厳しい 状況がある。しかしこの法人では、働く人の事情に合わせ形態や報酬を決定。そのため、対象者に 合わせ、企業の中で業務分解を行い、対象者ができる仕事を見いだしていく手法を取っていた。

業務分解は、企業にとっても有用で、様々な雑用がなくなることで、職員の業務の負担を減らすことにも寄与している。更に、就業を希望する人の状況に合わせ、スタッフが徹底的にサポートすることで、定着支援、トラブルの解消など、ときには代弁者になりながら支援を行っていた。

当市では、就労支援に協力的な企業がある。その企業の方に協力を頂き、仕事を作り出すことは可能ではないだろうか。企業にとっても、自分たちの仕事を見直すことにもつながり、働きやすい環境をつくる一つの手段にもなる。市外に就業希望者を求めるだけでなく、市内にまだまだ、就労したい方がいることに気づいてほしい。ただ、就労するためにサポートする人が必要であり、ユニバーサル就労ネットワークちばのスタッフのように、就労まで伴走しサポートする体制整備の必要性である。

当市ジョブカフェには、キャリアコンサルタントがおり、企業の業務分解をし、効率化・標準化できる能力を有する職員がいる。また、100社以上の協力企業もある。また、一般就労にすぐ結び付かなくても就労を希望する求職者がいる。当市の労働力不足の軽減にも貢献できる。

キャリアカウンセラーの力を活かし、引きこもりの方々も含め、就労を希望する方々が就労できる道を考えなければならないと感じた。